■武田石翁　　石の職人から，40過ぎに石の彫刻家へ飛躍，死の間際まで創作し続けた。
たけだせきおう
源内獄中死・1779＝　　安房国平郡本織村で，甲斐武田氏の末裔名主鎌田四郎左衛門の末子に生まれる。名は周治。

_幼時から，粘土をこねたり，木を彫ったりして，細工することが好きで，

蝦夷初調査・1785＝ 6歳：**_けやきの瘤を利用して天狗の面を彫り，鉛の眼が動く細工までするほどで，**
田沼意次失脚1786＝ 7歳：

・・・・・・1788＝ 9歳：

混浴禁止・・1791＝12歳：**_歴史的な房州石の切り出し場鋸山の安房国平郡出身の石工小瀧勘蔵に弟子入りすると，**

松平定信引退1793＝14歳：

昌平黌始・・1797＝18歳：**_早くも，親方勘蔵に代わって作品を手がけて，野島崎の厳島神社に七福神を奉納し，**
古事記伝・・1798＝19歳：**_上州榛名山の滝口に龍を刻むが，**

宣長没・・・1801＝22歳：**_親方に請われて，小瀧家の娘の婿養子に迎えられると，家庭を支えることに専念したのか，**

ﾚｻﾞﾉﾌ来航・ 1804＝24歳：**_山萩村福楽寺の宝塔を制作したのを最後に，石彫を止めてしまい，**

ﾚｻﾞﾉﾌ報復・ 1806＝27歳：

黒住教・・・1814＝35歳：**_実家の菩提寺普門院に地蔵尊を彫っただけであったが，**
・・・・・・1815＝36歳：

水野忠成老中1818＝39歳：***正月の夢に雲間を飛ぶ龍を見ると，早速，黒石に彫り，会心の作の「一角龍」となり，石翁と号する。**
養父との関係が悪くなっていたところに，
・・・・・・1820＝41歳：長女が夭折したことから，小瀧家を飛び出して，江戸に出るも，生活は困窮，
蝦夷地直轄終1821＝42歳：働き手を失って行き詰まった小瀧家からの懇請を受けて，戻るものの，武田姓を名乗るようになり，

ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝45歳：
_作品も次第に円熟さを増して，

ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝49歳：
ｼｰﾎﾞﾙﾄ追放・1829＝50歳：養父勘蔵が死去。

天保大飢饉始1833＝54歳：

大塩平八郎乱1837＝58歳：
_この頃から，名が知られるようになって，多くの作品を制作しはじめ，

勧進帳初演・1840＝61歳：***傑作の「二角龍」を制作，この年，谷向村の同門を訪れた梁川星巌門下の嶺田楓江が，それを見て感激し，わざわざ訪れて，詩を贈られる。**
天保改革弾圧1842＝63歳：
養父と対立したことへの後悔の思いも強まり，顕彰のための遺跡探しを始め，
天保改革終・1844＝65歳：妻が死去した際，小瀧家代々の墓地に，自らの法名も刻んだ墓碑を建立，
阿部正弘首座1845＝66歳：
この間，多くの知友を得，

三河国西大平藩主のもとに出入りするようになり，

国定忠治磔・1850＝71歳：国分村萱野の孝子塚に，「続日本後紀」に記載された孝子伴直家主の遺跡を保存すべく，記念碑を建立し，
尊徳報徳論・1851＝72歳：近くの国分寺境内に，家主が父母のために礼拝するさまを彫った記念碑を建立。
万次郎帰国・1852＝73歳：**_この年，61の時に制作した「二角龍」が会津藩主松平容保の目に止まり，望まれて献上された。**
ペリー来航・1853＝74歳：
_房総の海岸警備で北条鶴ヶ谷陣屋に赴いた岡山藩の番頭用人が巡視の途次立ち寄るなど，名声はさらに広まり，なお，制作を続け，

五ヶ国条約・1858＝79歳：***三浦三崎に滞在して，千手観音の大作を完成させて帰ると病臥するが，病床においても精巧な根付を制作するなど，最期まで意欲衰えることなく，没した。**

「人づくり風土記(千葉)」，